

commons: schola vol. 5

Yukihiro Takahashi & Haruomi Hosono Selections:

Drums & Bass

原典解説

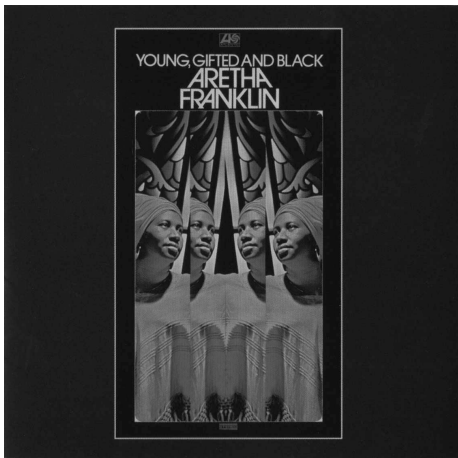
アリーサ・フランクリン (1938) は、ゴスペルの世界で有名な牧師だった父の教会で10代の頃から歌いはじめ、60年代初頭には伝説的なプロデューサーのジョン・ハモンドに発掘され、コロンビア・レコードと契約した。しかしその時期に作られた何枚かのジャズ寄りのレコードは、彼女の本来の魅力を生かしたものとは言えず、売れぬきにも結びつかなかった。

66年、レコード・プロデューサーのジェリー・ウェクスラー (1917〜2008) は、アリーサにもっと南部的な、ブルーズなどの黒人音楽に深く根ざした演奏をさせるこ

とで、彼女自身にも、商業的にも大きな成功がもたらされると考えた。ウェクスラーは彼女をアトラティック・レコードに引き抜き、67年夏には、まさに狙い通りの路線で作られた〈ヘリスベクト〉が大ヒットし、アリーサは一挙にソウルの女王へと昇りつめた。

収録曲の〈ロック・ステディ〉は、当時のソウル・ミュージックの中で次第に存在感を強めていた「ファンク」の初期の代表曲と言えるとともに、けつして多くはないアリーサの自作曲の一つだが、彼女の本領は、様々な歌手の曲を上手に選曲しては、すぐに自分の

ものにしてしまう素晴らしい才能にあった。本作でもデビューしたばかりのエルトン・ジョンのヒット曲〈ボーター・ソング〉をはじめ、ビートルズやオーティス・レディング、バート・バカラックなどのカヴァー曲が並んでいるが、特に公民権運動以降、黒人たちの間に高まっていた「ブラック・プライド」の雰囲気象徴する「ヤング・シモーン」の名曲〈ヤング・ギフト・アンド・ブラック〉の演奏は、ドニー・ハサウェイやレゲエの2人組ボブ&マーシアによるヴァージョンと比べても、最も素晴らしいと思える出来ばえだ。



曲名: ロック・ステディ

アーティスト名: アリーサ・フランクリン

アルバム名: ヤング・ギフトッド・アンド・ブラック

演奏者名: アリーサ・フランクリン (ヴォーカル、ピアノ)、ドニー・ハサウェイ (オルガン)、コーネル・デュプリー (ギター)、チャック・レイニー (ベース)、バーナード・バーディ (ドラムズ)、ロバート・ポップウェル、マック・レベナック [ドクター・ジョン] (パーカッション)、ウェイン・ジャクソン (トランペット)、アンドルー・ラヴ (テナー・サクソ)、キャロリン・フランクリン、アーマ・フランクリン、マーガレット・ブランチ、アン・S・クラーク、パット・スミス (コーラス)
録音: 1971年2月16日 マイアミ、クライテリア・スタジオ

CD番号: WPCR-75443

発売元: 株式会社ワーナーミュージック・ジャパン

(schola vol.5 CD track 1)